

人と人を結び付け 感動をもたらしす力

スポーツは、全ての人が共に楽しめるものです。スポーツを共に楽しむことで絆が生まれ、スポーツへの応援はスポーツをする人に力を、応援する人に感動を与えてくれます。住民の絆を深め、人に力を与えるスポーツは、野田市に活力を生み出してくれます。

スポーツ基本法の冒頭に「スポーツは、世界共通の人類の文化である」と宣言されています。

スポーツは、子どもから大人まで、障がいのある人もない人も、言葉や生活習慣の違いを超えて誰もが共に楽しみ、競うことができ、世界共通の人類の文化と言えます。体を動かすことは、人間の根源的な欲求を満たし、それ自体が喜びや楽しさをもたらします。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、未曾有の大被害を

もたりました。現在も復興への取り組みが続けられていますが、この震災や支援活動を通して、日本中で「人と人との絆」の重要性が再認識されました。

中でも、トップアスリートが被災地を訪れるなど、スポーツを通じてさまざまな形の支援活動は、復興に向けて歩みを進める人々に勇気と希望を与えたことは記憶に新しいと思います。

また、オリンピックなどの国際舞台におけるトップアスリートの

活躍は、被災地のみならず、日本国中に夢や感動、誇り、一体感をもたらします。

まさに、スポーツには、人に感動をもたらし、元気づけ、人と人を結び付ける力があります。

さらに、教育・福祉・観光・まちづくりなどと連動することで、スポーツが相乗効果を発揮し、心身の健康増進による、生活の質の向上や地域社会のつながり強化、経済を含めた野田市の活性化などに大きな影響を及ぼします。

スポーツで健康長寿

現在の日本は高齢化が進行し、平成19年には全人口の21パーセント以上が高齢者となったことから、超高齢社会と定義されるようになりました。

さらに、7年後には、団塊の世代のすべての方が後期高齢者（75歳以上）となり、全人口の4人に1人が75歳以上となります。

医療費の増大や、医療や介護の専門職の不足が懸念されることから、2025年問題と呼ばれています。

要介護認定率が低減した茨城県利根町

平成16年からシルバーリハビリ体操に取り組んだ茨城県利根町では、要介護認定率が低減しました。

体操指導士に認定された高齢者が高齢世代を支えており、町での互助活動として定着しています。体操教室は、月2～4回開催されており、これまでの参加人数は13,390人を超えています。

第1号被保険者における要介護認定率の推移

